

GIGAスクール構想 「那賀町モデル」推進に向けて

～学校現場の声と教育行政の動き～

はじめに

GIGA スクール構想は、これからを担う子供たちに求められるスキルを養い、時には IT の危険を理解し学習していくことができ、時代の移り変わりに柔軟に順応し思考する力を身に着ける機会を日頃から受けられる環境とすることが重要です。

当町は四国の右下に位置しており、人口約 7,000 人で町土の9割は山に覆われている自然豊かな町です。しかし、人口流出は激しく、加速する過疎化を食い止める方法を検討する一方で、「新しい時代に対応した「なか」の人たちの可能を引き出す学びの実現」を基本理念として掲げており、GIGA スクール構想拡充を好機として捉え、那賀町教育行政のひとつの柱としているところです。

1. GIGAスクール構想の推進拡充・環境整備

(1) GIGA スクール構想のはじまり

那賀町では平成 29 年度から GIGA スクール構想の先駆けとして、全教室にアクセスポイントを設置するほか、グループ1台に端末を整備するなど、県内では比較的先進的な環境整備を行い、独自の端末利用方法について研修や検討を重ねてきました。推進にあたり、どの OS が効果的なのか、必要なアプリケーションはなにか、などの課題があげられ、教育委員会視察で他県の状況を把握するほか、学校現場の要望を取り入れることとしました。

(2) GIGA スクール構想「那賀町モデル」

令和2年度にコロナ禍となり、学校は休校し、GIGA スクール構想は年次整備を急激に早め約半年で整備完了までもっていかねばならない状況となりました。しかし、那賀町は少しずつ進めていた環境整備も伸び悩みを見せしており、一括で環境整備ができることはまたとない好機で

した。GIGA スクール環境を有効に活用することができれば様々な課題が簡単に解決できます。私は、「このままでは学校現場に機械と環境だけが導入され、先生方に苦勞と不便をかけてしまう。この事業をどうしたら広く理解し、授業に活かしてくれるか。」と考えました。そこで打ち出した方針が GIGA スクール構想「那賀町モデル」です。大きな環境整備等は指示のある通りに実施しておりますが、大きく違うのが「教職員参加型」という点です。職員間での差が大きかった那賀町では、活用能力の底上げが必要不可欠でした。日頃使用する端末に苦手意識があって、学習効果の高まりを得ることはできません。しかし、どうやったら動くのか、自分の理想とする活用方法はなにかなど、活用方法を自ら考える機会を設けることで、「やらされている」ではなく「やってみよう」に意識が変わります。実際、初期段階では「不便」「わからない」などの声が多数ありましたが、現在では「こうしたらより実践的になる」や「このアプリが非常によさそうだ」などの積極的な声が教育委員会に寄せられるようになりました。これは ICT 活用力が高まり、活用方法や活用事例を学校職員独自で作り出している実績となっています。

2. 那賀町モデルについて

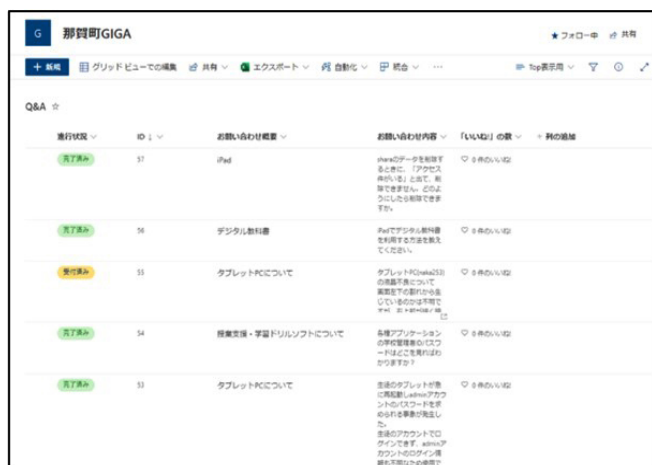
(1) 那賀町モデルの基本理念

那賀町モデルを推進するにあたり基本理念と3つの柱を掲げています。

基本理念	
那賀町立小中学校の核となる学習形態を目指す	
3 つ の 柱	学校の意見を吸い出す体制づくり
	学校職員が参画・実践できる環境づくり
	予算確保は最優先

1つ目の柱を実現するために、「那賀町 GIGA ワーキンググループ」を組織しました。内容としては月1回のオンラインによるワーキンググループのほか、各学校の推進状況や利活用での困り感を吸い出し、教育行政に挙げる役割を担っています。構成員は、各学校那賀町 GIGA 推進担当・学校長・GIGA スクールサポーター・ICT 支援員・教育委員会担当者となっています。

2つ目の理念は、那賀町 GIGA ワーキンググループを通して、質問や困り感を即時解決できる環境を確立しています。図のような GIGA 環境を活用したチャットや質問フォームを作成することによって気軽に疑問をぶつけることができます。それにより躓きを一瞬でもなくし、より進んで利活用に取り組むことができます。また、年に1回活用事例報告会という発表の場を設けており、それぞれの利活用方法を他校と共有し、活用の幅をさらに広げることができています。



最後の理念に関しては、那賀町 GIGA ワーキンググループで協議した事項により、予算措置が必要となった場合は、那賀町全校の総意として捉え、可能な限り財政担当課に予算要求を行っています。

これら3つの理念は取り組みとしては当たり前でも続けることが難しいと考えています。令和2年度から始まったワーキンググループは今年で2年が経過しました。継続することが学校職員の力になり、より良質な学習効果を生み出すことができます。学校の協力なしに GIGA スクール推進はあり得ないと痛感した2年でした。

(2) 那賀町 GIGA ワーキンググループについて

那賀町 GIGA ワーキンググループでは前述した以外にもさまざまな取り組みを行っています。

那賀町 GIGA ワーキンググループの取り組み	効果目的
月1回の定例会議	定期報告・諸連絡と活用にあたっての議題協議
導入アプリケーションのデモ	学校職員が数社からプレゼンを受けることにより、自ら使いやすいものを選び、活用方法を想像しやすくする
情報セキュリティポリシーの制定	現場の職務を阻害していないか確認しつつ、セキュリティ強化のためのポリシー制定
ICT 環境整備計画策定	学校備品の洗い出しと計画策定
活用事例報告会	年1回、オンラインによる活用事例を持ち寄っての発表を行う。オンライン授業で必要な画面共有やポイントでの注目など、技術的練習も含まれており、参加することで確実にスキルアップにつながる。
端末年度更新作業	ワーキンググループで研修するほか、各校で対応する年度更新作業を円滑に進める。

記載した事項は一部ですが、学校の取り組みや先生方の「やってみよう」という思いを絶やさないよう継続しています。特にワーキンググループを開催することで、那賀町 GIGA の現在の推進状況がわかり、会議参加者以外にも議事等を回覧することで全体把握も簡単にできる点がメリットとなっています。

各方面から大量の通知が来る学校だからこそ、一つに特化した仕組みを作ることにより、意識して活用に取り組んでいただけます。

他にも那賀町 GIGA の特設ページを作成し、マニュアルや保護者通知、過去の研修動画等を誰でもいつでも見られるようにしています。



また、Microsoft Teams のチャットを用いることによって、グループ通知の他に、個人チャットで質問や対応、依頼やデータのやり取りなどを簡単に行うことができます。出張等で電話が繋がらなくても即時解決できる問題は 24 時間対応するようにしています。

3. 成果と課題・今後の目標

那賀町モデルの理念を掲げ、那賀町 GIGA ワーキンググループを組織したことにより、那賀町の GIGA スクール構想は独自の研究と成果を上げ、学校現場に円滑に浸透していきました。取り組み内容としては学校職員が対象でしたが、スキルアップや IT リテラシーが伸びたことにより、授業の側面でも成果を出しています。ICT 教育とは言いつつも、電子黒板や GIGA 端末はあくまでもツールであり、職員の教育力が求められます。課題としては教職員の異動が懸念されます。積極的に那賀町モデルを推進していただいている先生もいずれは異動されます。そうなったときに新しく来た先生に理解し実践していただく必要がありますが、その体制づくりまではまだ至っていません。那賀町モデルを推進し、那賀町の核となる学習形態として根付かせ、町外から異動してきた先生には、今まで蓄積してきた那賀町のノウハウをそのまま実行できるような研修動画や仕組みづくりをこれから実施していきたいと考えています。

おわりに

教育行政は事業を打ち出し、予算をつけ、契約をすれば終わりではありません。特に那賀町のような過疎地域で指導主事等もおいていないような市町村は学校現場の

声や実態を把握しないまま事業を展開することになり、意味のない施策とならないように気を付ける必要があります。私は一般事務職員ですが、GIGA スクール構想は那賀町の課題を少しでも解決できるメソッドとなると思い、素人ながら全力で取り組んできました。教育行政は児童生徒・教職員がいて初めて成り立つことを自覚し、現場の声を吸い上げ、よりよい環境づくりを検討していくことが重要ではないでしょうか。私は学校に足を運び、学校職員の方々から数々の困り感や要望を聞くたびにこのことを強く感じます。各自治体独自の課題解決に向け、今一度学校現場の声を聴いてみてほしいかもしれません。